

事前にいただいたご意見

①福岡委員からいただいたご意見

利根川・江戸川河川整備計画（原案）に対する私の意見

中央大学研究開発機構 福岡 捷二

1. 利根川中流部は、調節池や江戸川分派点などが存在する複雑な河道構造を有していることから、複数の洪水ハイドログラフに基づいた洪水流解析などの調査研究を推進し、その成果を、具体の工事や維持管理に適用していくことが求められる。
2. 利根川下流域の河口から30.2 kmまでの区間は河道掘削を行うことになっているが、実施にあたっては、河口から数 kmまで掘削した際の洪水時の水位の縦断変化や河床の動態等について十分検討することが必要である。このため、河口部の河道掘削にあたっては、下流側から段階的に施工していくことを明示すべきと考える。その意味で、50ページの上から4行目～6行目「また、利根川河口部の掘削にあたっては、洪水時の水位の縦断変化や河床の動態等について継続的にモニタリングを行い、河川環境・維持管理も踏まえた検討を行いつつ実施する。」の表現は見直すべきと考える。
3. 利根川河口の導流堤撤去の必要性は「2. 河川整備の現状と課題」に記されている。しかし、「5. 河川の整備の実施に関する事項」には記述されていない。今回の河川整備計画の利根川河口域の改修では重要な整備項目ではないのか。記述するべきと考える。
4. 布川狭窄部の堤防、河道の維持管理は、その重要性から特記すべきではないのか。

②藤吉委員からいただいたご意見

- 超過洪水等不測の事態が発生した場合、どう被害を最小限にするか、また、どう復興するかなど、伝統的な治水技術の今日的な活用も含め流域全体で考えておく必要がある。
- 日頃から河川に関する情報提供に心がけるとともに、情報伝達訓練を実施しておく必要がある。また、大きな災害が発生した場合の被害想定や避難等のあり方について、日頃から解りやすく伝える努力が必要である。
- 危機管理対策についても、河川管理者だけでは解決できない問題があるので、他の機関との連携や防災教育についても今後、検討していくことが望ましい。
- 水防活動については、水防団員が減少している状況にあり対応が困難となるため、今の時代にあった方策で社会貢献できるような仕組みも必要である。

大妻女子大学 藤吉洋一郎

③川上委員からいただいたご意見

河川整備計画の原案について、その決定に至るまでの経緯と会議の論点について意見を述べます。

〔河川整備計画の原案の公表に至る経緯について〕 河川整備計画の原案については、1月29日に送信されてきた事務局からのメールで「原案を作成し、本日、記者発表する」とする内容が伝えられました。その時点では、それまでの有識者会議での意見集約が終わったのかどうか判然としておらず、さらに、会議での意見がどのように反映されたのかも全く分からないままで、原案の公表は寝耳に水の印象でした。この日以前は、会議を開くためとして委員の日程確認を事務局が何度も繰り返していただけない、原案が固まる前に会議が開かれるものとばかり思っていました。このタイミングでの原案の公表はあまりに唐突で、驚きとともに不信感さえ覚えました。計画原案の公表に至る経緯を説明していただきたいと思います。

〔会議の論点について〕 以前にも述べましたが、この有識者会議には河川の専門家だけでなく流域のさまざまな分野の方が出席されています。会議では、河川の影響や恵み、住民の思いなどについての意見をそれぞれの立場から述べることで、よりよい河川の整備計画ができるのではないのでしょうか。今回は、設定された目標流量の是非のみが論点でした。流量の是非のみの意見集約を行うのであれば、この会議ではなく、専門的知見を有した方に絞った「専門家会議」のような場を設けて、その是非を諮問するのが妥当ではないのでしょうか。さらに、その会議で何が論点になるのか（今回の場合なら流量の是非）を明確にしてから委員を招集すべきだと考えます。

川上 俊也

④須田委員からいただいたご意見

東日本大震災、福島第1原発事故の発生から間もなく2年になります。「未曾有」「想定外」の言葉が飛び交い、何が起こるか分からない、何が起こってもおかしくないのが自然界であることを学びました。多くの尊い人命が失われました。利根川・江戸川河川整備計画も、繰り返される容赦ない自然災害から「人の命を守る」ことを最優先の目標にすべきでしょう。

原案には堤防の整備・強化や河道掘削など、多岐にわたる対策が盛り込まれています。概ね30年間の計画期間ですが、長い期間ですから当然、経済状況や社会情勢、河川環境の変化等により流動的な面もあると思います。緊急度に応じて優先順位を付け、速やかに実施していくことが安全を守るために肝心だと考えますが、具体的に、早急に手当てすべき策は何なのか、あるいは、例えば予算等の理由で計画を縮小せざるを得ない場合、どの対策がどう変わるのかといった見通しなども知りたいところです。

須田 雅彦

